

世と教界を見る目を養う(20)

=バビロン化した有様=

聖書:2テモテ3:1-8

(1) 自分との関係:自分を愛する→金銭を愛する→ほらを吹く→高慢になる→神をあざける→両親に従わず→恩を知らない→神を畏れない

(2) 他者と神との関係:情け(自然の肉親の情)を知らず→和解しない(条約・協定に入らない)→中傷する(偽りの告発)→節度を失う(自制喪失)→残忍となる(憐れみを示さない)→善を好まない(善を嫌悪する)→裏切り→軽率(感情で振り回される)→思い上がり(プライドで盲目となる)→神よりも快樂を愛する→信心を装いつつその力を否定

(3) 悪魔による攻撃の方法:

①迫害(ローマ初期)、②偽り(ローマ末期)、③妥協(中世)、④侵入(現代)

→内部よりの腐敗を目論む;家の中に入り込み、愚かな女をたぶらかす、学びつつも真理に達しない(6-7節)

(ヤンネとヤンプラは伝承による魔術師の名、cf.出エジプト7:11)

(4) 知性(思い)が腐敗する、信仰の失格者となる(=キリストに対する信頼を放棄する=自分に頼る);しかし無知が暴露され、蔓延ることはない

(5) 神の裁きは神の家から始まる(ヨハネ2:14-18;1ペテロ4:17):ニッポンキリスト教は今後悲惨な状況に陥る→残される少数の者となれたら幸い(黙示録3:4)

(6) 信仰に立つ鍵:自分に頼らない(否む);金銭に頼らない;へりくだる;神をあがめる;権威に従う;神を畏れる→神と他者の関係が正常化される

・特に思いをガードする(2コリント11:3;2コリント10:5;2テモテ2:23)